

中国における現地情報

2022年 6月 14日

株式会社フェアコンサルティング

上原 行雲

上海市における納税申告期限の再延長及び企業所得税確定申告期限等の延長について

1. 上海市における納税申告期限の再延長

2022年6月1日から全面的なロックダウン解除が進む上海市ですが、結局、ロックダウン期間中に復工申請（営業活動の再開申請）が認められた会社を除く多数の会社が、4月及び5月の2ヶ月間に渡り、一切会社に出社できない事態に陥りました。このため、2022年5月27日付で、上海市税務局より4月、5月及び6月の申告納税期限再延長に関する通告が公表されました。具体的な内容は、以下のとおりです。

- 一. 月ごと、または四半期ごとに申告する納税者について、4月、5月及び6月の申告納税期限を6月30日まで延長する。
- 二. 納税者は疫病の影響により、4月、5月及び6月の申告納税期限内に申告を行うことが困難な場合、法に基づいて税務機関に対して申告の延長を申請することができる。納税者は国家税務総局上海市電子税務局上の（「我要办税」 - 「税务行政许可」 - 「对纳税人延期申报核准」）を通じて延期申告手続きを行うことができる。

上記の4月、5月及び6月の申告対象は、それぞれ2022年3月度、4月度及び5月度となります。

2. 上海市における企業所得税確定申告期限等の延長

1に合わせて2022年5月20日付で、上海市税務局より2021年の企業所得税確定申告期限についても延長の通知が公布されました。さらに、2022年6月1日付で、工商年検及び連合年検（前年度の会社運営状況を各行政機関に報告する制度）の報告期限に関しても延長の通知が公布されました。上海市の会社が2021年度の年次業務として実施すべき内容と申告期限は以下の通りとなります。

項目	報告先	通常期間	延長措置
企業所得税 確定申告	主管税務機関	1月1日～ 5月31日	1月1日～ 6月30日
個人所得税 確定申告	主管税務機関	3月1日～ 6月30日	なし
工商年検及び 連合年検	市場監督管理局・商務委員会・ 統計局・税務総局・税関・財税 局・外貨管理局	1月1日～ 6月30日	1月1日～ 9月30日

※2020年1月に施行された外商投資法により、2019年度分から、連合年検は工商年検で使用される企業情報信用システムを通じて、市場監督管理局から各関連機関に対して情報共有が行われることとなっています。そのため、各機関に対する個別の年度報告の実施は不要となっています。

1及び2の影響により、6月度に実施する財務税務関連業務は大幅に増加します。くれぐれも処理誤りや処理漏れにはご注意ください。

フェアコンサルティング中国

(正緯企業管理諮詢(上海)有限公司)

北京分公司 北京市朝陽区東三環北路甲19号楼 嘉盛SOHO 10層 A058室 電話：+86-10-8524-0758 担当：栗村 (AWAMURA) 日本国公認会計士 hi.awamura@faircongrp.com	蘇州分公司 蘇州工業園区華池街88号 晉合広場2 号11F 1176室 電話：+86-512-8916-5176 担当：坂林 (SAKABAYASHI) mi.sakabayashi@faircongrp.com
上海総公司 上海市黄浦区茂名南路58号 花園飯店(上海) 601室 電話：+86-21-6473-5450 担当：上原 (UEHARA) 日本国公認会計士 ik.uehara@faircongrp.com	広州分公司 広州市天河区珠江新城珠江東路12号 高德置地冬広場H座1501室 V80 電話：+86-20-3268-9966 担当：古矢 (FURUYA) 日本国公認会計士 yo.furuya@faircongrp.com
深セン分公司 深セン市福田区深南大道4019号 航天大厦A座610室 電話：+86-755-8252-8290 担当：古矢 (FURUYA) 日本国公認会計士 yo.furuya@faircongrp.com	

<連載コラム>

中国なんくるないさ～通信 No. 13

6月1日、長い間続いていた上海市のロックダウンが解除されました。4月や5月中にも、ロックダウン解除の噂はSNS上で何度も飛び交い、明日か来週かという希望は散々霧のように消えていきましたが、ロックダウン開始と同様、突然のロックダウン解除となりました。今回の本コラムでは、上海港の概要と上海市の約2ヶ月に及ぶロックダウンが、物流に与えた影響について簡単に紹介していききたいと思います。

まず、ニュースでご存じの方も多いかと思いますが、上海市には世界一（2020年）のコンテナ取扱量を誇る上海港が存在します。以下の統計データで見てもわかるように、40年前の1980年と比較した2020年の世界全体のコンテナ数取扱量は、中国の港が上位を占めており、上海港はその中でも突出して多くなっていることが分かります。

港湾名(国・地域名) 取扱量 港湾名(国・地域名) 取扱量 (単位: 万TEU)

1980年			2020年(速報値)		
順位	港湾名(国・地域名)	取扱量	順位	港湾名(国・地域名)	取扱量
1	ニューヨーク(米国)	194.7	1	上海(中国)	4,350.10
2	ロッテルダム(オランダ)	190.1	2	シンガポール	3,687.10
3	香港	146.5	3	寧波-舟山(中国)	2,873.40
4	神戸(日本)	145.6	4	深セン(中国)	2,655.30
5	高雄(台湾)	97.9	5	広州(中国)	2,319.20
6	シンガポール	91.7	6	青島(中国)	2,200.50
7	サンファン(ペルトリコ)	85.2	7	釜山(韓国)	2,159.90
8	ロングビーチ(米国)	82.5	8	天津(中国)	1,835.60
9	ハンブルグ(ドイツ)	78.3	9	香港(中国)	1,797.10
10	オークランド(米国)	78.2	10	ロサンゼルス/ロングビーチ(米国)	1,732.70
11	シアトル(米国)	78.2	11	ロッテルダム(オランダ)	1,434.90
12	アントワープ(ベルギー)	72.4	12	ドバイ(アラブ首長国連邦)	1,348.60
13	横浜(日本)	72.2	13	ポートケラン(マレーシア)	1,324.40
14	ブレーメン(西ドイツ)	70.3	14	アントワープ(ベルギー)	1,204.20
15	基隆(台湾)	66	15	廈門(中国)	1,141.00
16	釜山(韓国)	63.4	16	タンジュンペレパス(マレーシア)	984.6
17	ロサンゼルス(米国)	63.3	17	高雄(台湾)	962.2
18	東京(日本)	63.2	18	ハンブルグ(ドイツ)	857.8
19	ジッダ(サウジアラビア)	56.3	19	ニューヨーク/ニュージャージー(米国)	758.6
20	バルチモア(米国)	52.3	19	京浜港【東京、横浜、川崎】	757.8
(39)	大阪	25.4	20	レムチャパン(タイ)	755.3
(46)	名古屋	20.6	不明	京浜【東京】	474.7
			不明	京浜【横浜】	266.2

(出所: 国土交通省HP「統計情報-港湾関係統計データ」を加工)

(TEU=20フィートコンテナ1個分)

この世界一のコンテナ取扱量である上海港ですが、上海国際港務集団(SIPG)によると、2022年4月の上海港コンテナ取扱量は前年同月比で17.0%減少しており、5月も同様に二桁の減少となる見込みとのこと。

ロックダウンが解除されたことにより、物凄いスピードで物流も復旧してきていますが、6月13日現在ではまだ物流が完全に正常化したとは言えないという感覚です。実際に物流を2ヶ月間も止めてしまうという現実に対して、各企業がサプライチェーンの再構築の検討を進めている、または既に動き始めているという話を現地でも耳にします。

読者の皆さま方に置かれましても、サプライチェーンの構築及びそれに伴う企業再編についてお困りでしたら、お気軽にご相談ください。